

新本庁舎のエネルギー源となる地中熱交換杭の工事をしています

工事中の新本庁舎にはさまざまな省CO₂技術を活用しており、そのうちのひとつである、「地中熱交換杭」の工事をしています。

地中熱交換杭により、新庁舎では安定した地中熱を空調の熱エネルギーとして利用します。工事中におきましては市民のみなさまにご不便おかけしますが、何卒ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

地中熱利用は地中温度と外気温の温度差をエネルギー源に活用

地中温度は、外気温に比べて夏は冷たく冬は暖かいため、新庁舎では地中温度と外気温との温度差をヒートポンプにより、空調の熱エネルギー源として有効活用します。

地中温度は1年を通じてほぼ一定

地中温度は、土壌の断熱機能により大気温度変化の影響を受けにくく、1年を通じてほぼ一定です。

地中熱は地球上のどこにでもあるエネルギー

地中熱は地球上のどこにでもあります。そして、天候の影響も受けない、まさに日本中のどこでも、いつでも利用可能で安心・安全なエネルギーです。

地中熱は環境にやさしい再生可能エネルギー

地中熱は大気への排熱がないため、省CO₂対策としての効果も期待でき、環境にやさしく且つ省エネ効果も得られる次世代の再生可能エネルギーです。

冷房運転時のイメージ

暖房運転時は熱の流れが逆になります。

